



小学生における心肺蘇生法に 関する意識調査

国士舘大学大学院救急救命システムコース¹

国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター²

毛呂花子^{1,2}
高橋宏幸¹

田中秀治¹
前住智也¹

安田康晴¹
中尾亜美¹

張替喜世一¹
津波古憲¹

鈴木靖奈¹

はじめに

近年、小中学校においてもAEDの設置が進み、先生のみならず心肺蘇生講習を授業内で行う学校が増加しつつある。

BLS教育を実施した経験は多く耳にするが、発達段階途中にある小学生がBLS教育を受けた際の気持ちの変化についての報告は少ない。



目 的

学校内で心肺停止状態の傷病者が発生した場合、バイスタンダーとなりうるのは児童、生徒の可能性が高い。

本研究は小学校において90分のBLS教育を実施し、受講した小学生がBLS教育の前後でみられる変化を明らかにする。



対 象

小学校の授業内(90分～100分)で
BLSを受けた、5・6年生

合計151名

研究方法

小・中学校の授業時間内で90分から
100分間のBLS教育を行い、その前
後で心肺蘇生に対する18項目にてアン
ケートを4段階、でかつ回答を2者択
一でえた。

前後で実施したアンケート内容

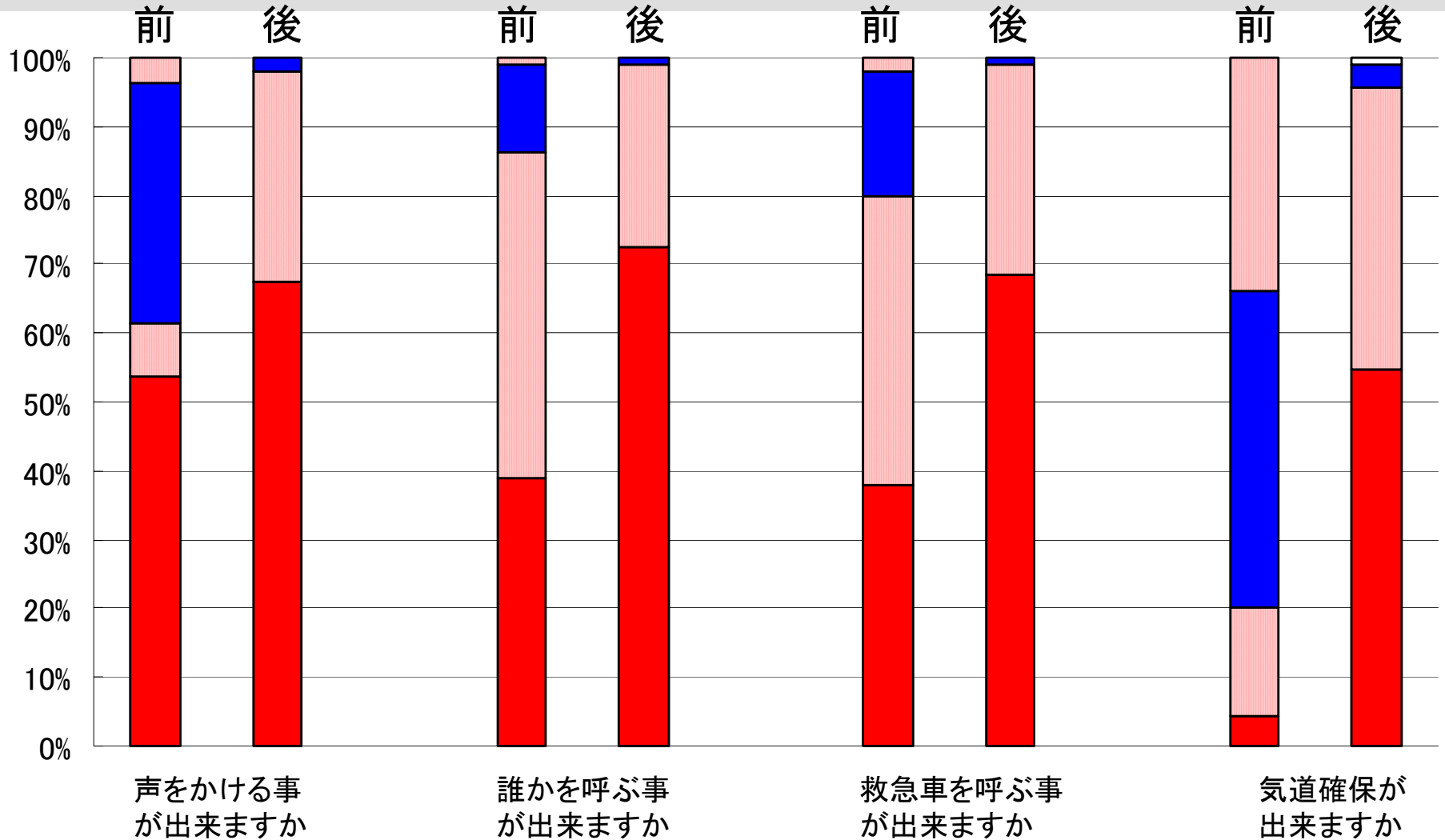
- Xxアンケート内容を
記載

学校で実施したBLS教育

時間	1限目
10分	挨拶・アンケート記入・ディスカッション
20分	命の教育DVD視聴
10分	ディスカッション
5分	実技準備
2限目	
20分	胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸
5分	デモンストレーション
10分	周囲の安全確認・意識の確認 応援要請・呼吸の確認
10分	AEDの使用方法
	一連の流れ・まとめ

救命講習に対するアンケート結果 (受講前・後の比較)

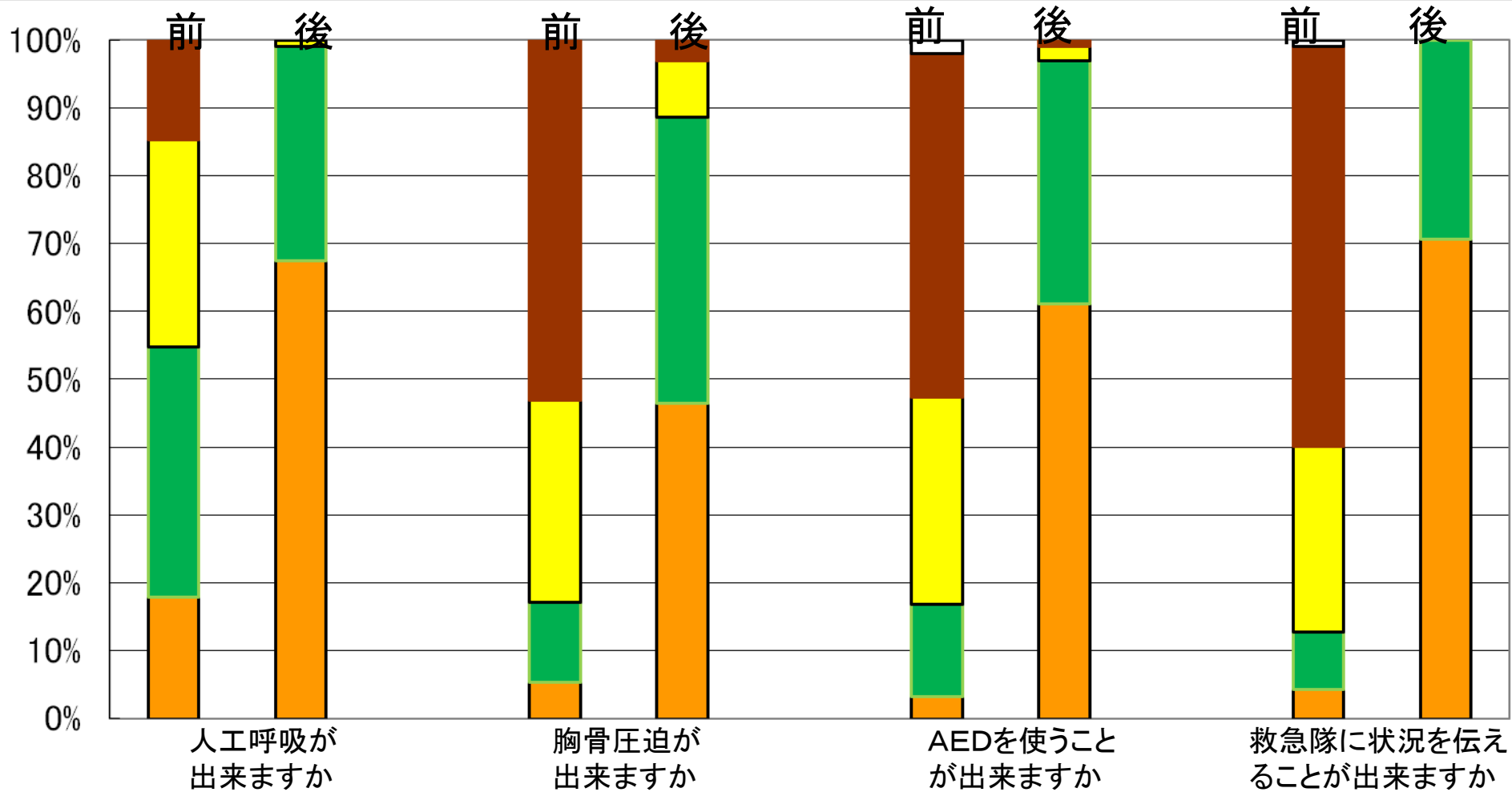
N=151



■ 確実にできる
 ■ おそらくできる
 ■ おそらくできない
 ■ できない
 無回答

救命講習に対するアンケート結果 (受講前・後の比較)

N=151



■ 確実にできる

■ おそらくできる

■ おそらくできない

アンケートその2

N=151

	前(%)	後(%)
BLSを知っている	47	
AEDを知っている	66	
正しいBLSが出来る	3	97
命を救う行為に興味がある	51	79
BLSは難しいイメージがある	76	44
家族や友達が倒れたら、BLSを行なう	20	98
学校でBLSを学びたい	79	98



考 察

- ◆ 小学生を対象とした、わずか90分という短時間でも心肺蘇生法を学ぶことで、人を助けられる自信のみならず、人を助ける気持ちや命を大事にする気持ちを身に付けることが出来たと考えられる。
- ◆ 今後、中学校や高校などの指導要領にそつた内容を学校に普及すべきと考える

結 語

- 学校内で心肺蘇生法をライフスキルトレーニングの一つの教育手法として実施することで、人が倒れた時に声をかける勇気や他人への思いやり、命の大切さを考えるきっかけを与えることができると考えられる。
- 今後、学校内で確実に心蘇生法を指導できるような体制を至急整備することが急務と考えられた